

経営比較分析表（平成29年度決算）

栃木県 上三川町

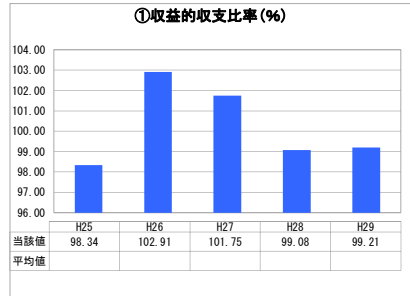
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	18.44	87.22	2,160

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
31,441	54.39	578.07
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
5,775	2.90	1,991.38

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



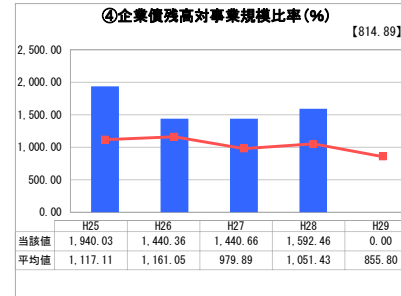
「単年度の収支」



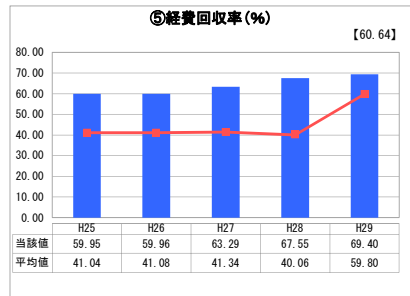
「累積欠損」



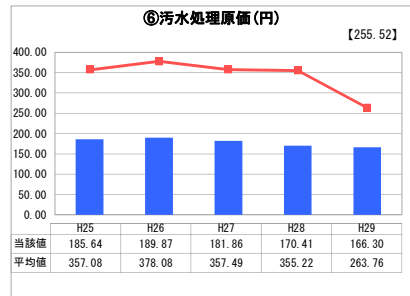
「支払能力」



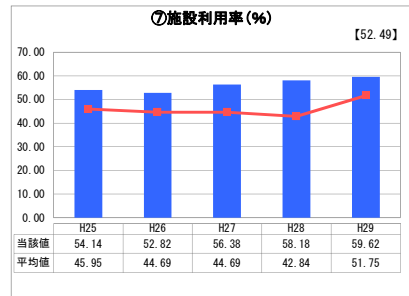
「債務残高」



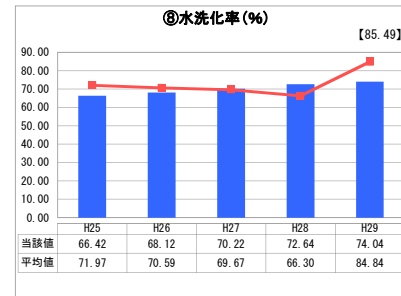
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

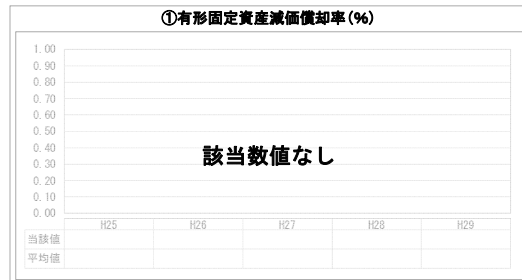


「施設の効率性」

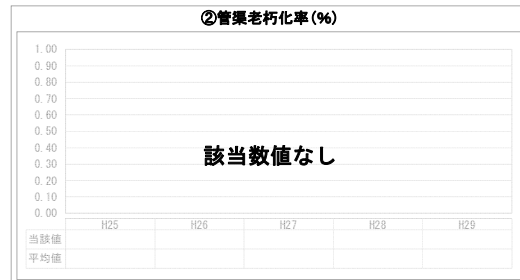


「使用料対象の捕捉」

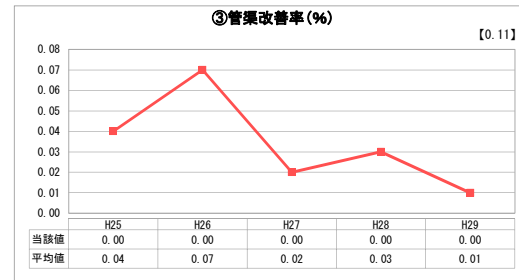
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率が前年度より上昇し100%近い数値となっているが、一般会計からの繰入金に依存している状況である。
 経費回収率は類似団体平均値を10%近く上回っている状況だが、100%を下回っており、汚水処理に係る経費を使用料で賄えていないため、経費削減に努めるなど今後も経営改善に向けた取組が必要である。
 汚水処理原価は類似団体平均値を下回っているが、引き続き接続率の向上により有収水量の増加を図る取組が必要である。
 施設利用率は既に整備事業が完了していることもあり、接続件数の伸びに伴い少しずつ増加している。
 水洗化率についても年々上昇傾向であるが、依然として低い水準であるため、今後も引き続き戸別訪問を実施することにより数値の向上を目指していく必要がある。

2. 老朽化の状況について

平成14年に供用開始をしてから15年程度経過しているが、耐用年数を経過している施設はまだ無い。そのため、改修が必要な状況ではない。
 そのため、現在は老朽化対策等を実施していないが、今後は排水処理施設の機能診断をずと共にストックマネジメントを踏まえて、計画的に対策に取り組んでいく必要がある。

全体総括

経営の健全性・効率性については、類似団体平均値と比較して概ね良好な数値を示しているが、引き続き維持管理費等の削減に努める必要がある。
 併せて、水洗化率の向上や有収水量の増加による料金収入の確保を図るなど、更なる経営改善も必要である。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。